

開講年度：2026

科目名	運動器（筋骨格）	題目（副題）	
担当教員、教員連絡先内線	高橋 淳 田淵 克彦・菅野 祐幸・藤永 康成・岡本 正則		
学年、講義期間、曜日・時限	3 前期（随時）	月曜・1時限 月曜・2時限 月曜・3時限 月曜・4時限 月曜・5時限 月曜・6時限 火曜・1時限 火曜・2時限 火曜・3時限 水曜・5時限 水曜・6時限 木曜・1時限 木曜・2時限 木曜・3時限 金曜・4時限 金曜・5時限 金曜・6時限	
単位数、講義室	1. 50単位 医学科第2臨床講堂	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業達成目標
	M21カリ・医学		
	患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適確に判断し、必要な行動ができる。	⇔	運動器疾患特有の身体的な特徴、社会的背景を評価し、これらの情報を元に臨床実習において医学生として適切な判断・行動が可能となること。
	疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得している。	⇔	運動器疾患の症状・診察方法・画像所見を理解し、これに基づいて正確な診断と適切な治療が立てられるようになること。
	M26カリ・医学, M25カリ・医学, M24カリ・医学, M23カリ・医学, M22カリ・医学		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技能を修得している。	⇔	各運動器疾患の基礎的・専門的な知識を有し、疾病の正確な診断を下すことができ、かつその病態に基づいた適切な治療を選択・立案する事ができる
臨床実習前の到達目標	＜問題解決力＞患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して適切に判断し必要な行動ができる。	⇔	運動器疾患特有の患者の身体的・心理的・社会的背景などの様々な症状を総合的に評価した上で適切かつ最適な判断を下して行動できる。
	・医学・医療の歴史的な流れ、臨床推論や生と死に係る倫理的問題、各種倫理に関する規範を概説できる。 ・患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームドコンセントなどの意義と必要性を説明できる。 ・必要な課題を発見し、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な解決方法を見出すことができる。 ・講義、教科書、検索情報などを基に、自らの考えを示すことができる。 ・必要最低限の病歴を聴取し、基本的な身体診察を行うことができる。 ・適切な態度で診断治療を行うことができる。 ・問題志向型医療記録形式を用い、最低限の診療録を作成できる。 ・コミュニケーションの方法と技能およびその及ぼす影響を概説できる。 ・チーム医療の意義を説明できる。 ・チーム医療における医師の役割を説明できる。 ・医療事故の防止において個人の注意、組織的なリスク管理の重要性を説明できる。 ・災害医療を説明できる。 ・研究は医学・医療の発展や患者の権利の増進のために行われることを説明できる。 ・生命科学の講義や実習から得られた情報や知識を基に疾患の理解・診断の深化につなげることができる。 ・生涯学習の重要性を説明でき、継続的学習に必要な情報を収集できる。 ・信州の医療圏の特徴を説明できる。		
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業のキーワード	運動器の機能解剖、バイオメカニクス、画像診断、骨・関節・筋・靱帯の退行性疾患、外傷、機能障害の病態の把握とその治療法。骨軟部腫瘍、小児整形外科、リハビリテーション、筋疾患 実務経験のある教員による授業科目		
授業の概要・一般目標	基礎医学で学習した骨、関節、神経、筋などの解剖学、生化学、生理学をもとに、整形外科的疾患の発生原因、症状の発現機序などを理解する。その後、各疾患の診断確定に必要な検査、各種の画像診断、現在行われている治療（保存的、手術的）を学ぶ。 B-1-6)社会と健康・疾病との関係を理解し、個体及び集団をとりまく環境諸要因の変化による個人の健康と社会生活への影響について説明できる。 D-2-2)神経系の正常構造と機能を理解し、主な神経系疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療について説明できる。 D-4)運動器系の正常構造と機能を理解し、主な運動器疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療について説明できる。 E-8-1)加齢に伴う身体的変化、精神・心理的变化、高齢者に特有な疾患・病態の診断と治療、リハビリテーション、介護、人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）に関わる問題について説明できる。 F-1)主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概要を各分野統合して学ぶことにより、医師として必須となる診療の基本について説明できる。 F-2-14)リハビリテーションの基本を説明できる。 F-3-5)身体診察（四肢と脊柱）について説明できる。		

授業の概要・一般目標	1) 運動器疾患の問診、身体所見の特徴を理解して実践できる。 2) 運動器疾患の基本的な鑑別診断を理解できる。 3) 脊髄神経の神経所見を説明できる。 4) 運動器疾患に置ける基本的な画像（写真、X線、CT、MRI等）の異常所見を説明できる。 5) 骨、関節、四肢の外傷や疾患の基本的な診断、病態、治療を説明できる。 6) 肩、肘、手指の外傷や疾患の基本的な診断、病態、治療を説明できる。 7) 頸椎、胸椎、腰椎、脊椎・脊髄の外傷や疾患の基本的診断、病態、治療を説明できる。 8) 股、膝、足部の外傷や疾患の基本的な診断、病態、治療を説明できる。 9) 小児整形疾患の基本的な診断、病態、治療を説明できる。 10) 四肢の骨軟部腫瘍の基本的な診断、病態、治療を説明できる。 11) 加齢による骨、関節疾患の基本的な診断、病態、治療を説明できる。 12) 骨、軟骨の変性と再生について基本的な説明が出来る。 13) 運動器疾患の手術治療の基本を説明できる。
テキスト、教材、参考書	標準整形外科 第14版（医学書院）
履修上の注意	
授業の形式、視聴覚機器等の活用	PCプレゼンテーション 資料は各自e-ALPSよりダウンロードする。
成績評価の方法	中間試験（50％）と期末試験（50％）による総合評価による。 合計60％以上を合格とする。 試験では、本授業の学修目標への到達度および今後に必要な知識が定着しているかを確認します。
成績評価の基準	90－100点：秀 80－89点：優 70－79点：良 60－69点：可 全ての回に出席することを基本とします。この授業の達成目標に到達するために必要な出席回数（およそ8割程度）に出席が満たない場合は、単位を認めない場合があります。欠席した場合の学修補充については、医学部医学科履修及び試験内規に従います。
事前事後学習の内容	本授業の単位修得には21時間分の時間外学習が必要です。
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー（質問、相談への対応）	臨床疾患を通じて、基礎医学で運動器について学んだ知識をさらに深める。疑問点は積極的に質問し、授業中に理解するように努める。 質疑相談はメールでも対応可能です。 seikei@shinshu-u.ac.jp

授業日	第 1 回	6月 3日(水 5)	SB0s	D-4-1) ①骨・軟骨・関節・靱帯の構造と機能を説明できる。 ④四肢の主要筋群の運動と神経支配を説明できる。 ⑥骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	運動器系の基礎科学と機能解剖			
担当	高橋 淳			D-4-2) ①徒手検査（関節可動域検査、徒手筋力テスト）と感覚検査を説明できる。
授業日	第 2 回	6月 3日(水 6)	SB0s	D-4-4)-(1) ③骨折の分類、症候、診断、治療と合併症を説明できる。 ⑦変形性関節症を列挙し、症候と治療を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	運動器疾患の診断・検査・治療			○四肢の基本的外固定法を説明できる。
担当	高橋 淳			
授業日	第 3 回	6月 4日(木 1)	SB0s	D-4-1) ⑥骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	カルシウム代謝及び骨形成			
担当	森琢磨			
授業日	第 4 回	6月 4日(木 2)	SB0s	D-4-4)-(1) ①腰椎椎間板ヘルニアの症候、診断と治療を説明できる。 ②腰部脊柱管狭窄症の病態、症候、診断と治療を説明できる。 ③腰椎分離・すべり症の症候、診断と治療を説明できる。 ④運動器慢性疼痛（腰部痛、頸部痛、肩こり）の病態、診断と治療を説明できる。 F-1-35) ①腰部痛の原因と病態生理を説明できる。 ②腰部痛をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 ③腰部痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 ○腰痛症と腰椎椎間板ヘルニアの病態、発生機序およびその診断、治療法について最近の基礎・臨床報告に基づいて述べる。 ○椎骨の構造と脊柱の構成を説明できる。 ○腰部痛の原因を列挙できる。 ○腰部痛を訴える患者の診断の要点を説明できる。 ○腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離・すべり症の症候と治療を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	腰椎疾患の診断と治療			
担当	大場悠己			
授業日	第 5 回	6月 4日(木 3)	SB0s	D-4-4)-(1) ⑤骨粗鬆症の病因と病態を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	骨粗鬆症の診断基準と治療指針			○骨粗鬆症の診断方法を説明できる。 ○骨粗鬆症の疫学的概要を説明できる。 ○人口の高齢化に伴って増加している骨粗鬆症に対し種々の薬剤が開発され、臨床に使用されている。薬剤の特徴を言える。
担当	上村幹男（かみむらクリニック院長）			
授業日	第 6 回	6月 5日(金 4)	SB0s	D-4-4)-(1)⑥腱鞘炎の病態、診断と治療を説明できる。 ○手指の機能解剖について説明できる。 ○手指の主な外傷、疾患、先天異常の病態、診断、治療法を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	手指の外傷・疾患の診断と治療（腱鞘炎、ばね指、ヘバーデン結節、なども含める）			
担当	北村陽			
授業日	第 7 回	6月 5日(金 5)	SB0s	○バングラディッシュでの医療活動について聴取する。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	バングラディッシュでの医療活動			
担当	酒井典子（長野県立こども病院）			
授業日	第 8 回	6月 5日(金 6)	SB0s	D-4-1) ④四肢（足部）の骨格、主要筋群の運動と神経支配を説明できる。 ○足の機能解剖とX線写真を説明できる。 D-4-2) ①筋骨格系の病態に即した徒手検査（四肢・脊柱の可動域検査、神経学的検査等）を説明できる。 ○足の診察法を実践できる。 D-4-4) ①四肢外傷の診断と初期治療を説明できる。 ②関節の脱臼、靱帯損傷の定義、重症度分類、診断と治療を説明できる。 ③骨折の分類、症候、診断、治療と合併症を説明できる。 ○足の主な外傷疾病・脳性麻痺疾患の病態、診断、治療法を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	足の外科（外傷・脳性麻痺疾患）の診断と治療（内反足も）			
担当	酒井典子（長野県立こども病院）			
授業日	第 9 回	6月 8日(月 4)	SB0s	D-4-4)-(1)①①腰椎椎間板ヘルニアの症候、診断と治療を説明できる。 ○頸椎の退行性変性により生じる変性性疾患につき理解し、その病態、診断、治療につき基本的事項を習得する。 ○頸椎症性脊髄症、頸部神経根症の症候と診断と治療を習得する。 ○頸椎後縦靱帯骨化症診断と治療を習得する。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	頸椎疾患の診断と治療			
担当	上原将志			

授業日	第 10 回	6月 8日(月 5)	SB0s	F-2-14)
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	リハビリテーション医学/義肢・義足			①リハビリテーションの概念と適応（心大血管疾患、呼吸器疾患、癌等の内部障害を含む）を説明できる。 ②リハビリテーション・チームの構成を理解し、医師の役割を説明できる。 ③福祉・介護との連携におけるリハビリテーションの役割を説明できる。 ⑤機能障害と日常生活動作(activities of daily living <ADL>)の評価ができる。 ⑦主な歩行補助具、車椅子、義肢（義手、義足）と装具を概説できる。
担当	池上章太（リハビリテーション科）			
授業日	第 11 回	6月 8日(月 6)	SB0s	D-4-1)
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	肩、肘関節の外傷・疾患の診断と治療			①骨・軟骨・関節・靱帯の構成と機能を説明できる。 ○肩、肘関節の機能解剖について説明できる。 D-4-4)
担当	北村陽			①四肢・脊椎外傷の診断と初期治療を説明できる。 ②関節の脱臼、靱帯損傷の定義、重症度分類、診断と治療を説明できる。 ③骨折の分類、症候、診断、治療と合併症を説明できる。 ○肩、肘関節の主な外傷、疾患の病態、診断、治療法を説明できる。
授業日	第 12 回	6月 9日(火 1)	SB0s	D-4-4)-(3)
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	骨・軟部腫瘍の病理-1：骨腫瘍の病理について学ぶ。			①原発性骨腫瘍（骨肉腫、Ewing肉腫など）の疫学、分子異常、病理所見と予後を説明できる。
担当	福島万奈（福井大学）			
授業日	第 13 回	6月 9日(火 2)	SB0s	D-4-4)-(3)
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	骨・軟部腫瘍の病理-2：軟部腫瘍の病理について学ぶ。			③軟部腫瘍（良性および悪性）の疫学、分子異常、病理所見と予後を概説できる。
担当	福島万奈（福井大学）			
授業日	第 14 回	6月 9日(火 3)	SB0s	F-3-5)-(7)①脊柱（弯曲、疼痛）の診察ができる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	脊柱側彎症の診断と治療			○側彎症を生じる種々の疾患とその原因について考察し、さらにその診断と、非手術的治療、並びに前方や後方矯正固定術などの外科的治療について紹介する。
担当	高橋 淳			
授業日	第 15 回	6月10日(水 5)	SB0s	D-4-4)-(1)
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	マイクロサージャリー			①四肢外傷の診断と初期治療を説明できる。 ○救急外傷と四肢組織再建におけるマイクロサージャリーを概説できる。
担当	宮岡俊輔			
授業日	第 16 回	6月10日(水 6)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	自習			
担当				
授業日	第 17 回	6月11日(木 1)	SB0s	E-8-1)
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	運動器疾患と健康寿命の延伸（大腿骨近位部骨折、ロコモ、サルコペニアなど）			④サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念、その対処法、予防が説明できる。 近年社会問題となっている、大腿骨近位部骨折の分類、治療法、合併症、予防について理解する。また、骨粗鬆症とロコモティブ症候群、サルコペニアについて概説する。
担当	天正恵治（丸の内病院）			
授業日	第 18 回	6月11日(木 2)	SB0s	B-1-6)⑤スポーツ医学を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	膝関節のスポーツ外傷（前十字靱帯・半月板・軟骨損傷）			○膝関節の機能解剖と、その構成体の損傷時の病態、症状、診断、さらに最近の治療法を解説する。
担当	天正恵治（丸の内病院）			
授業日	第 19 回	6月11日(木 3)	SB0s	B-1-6)⑤スポーツ医学を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	スポーツ障害の予防と治療/			○手指のスポーツ外傷、障害の概念、治療法を概説できる。 ○四肢・脊椎のスポーツ障害の概念、予防、治療法を説明できる。 ○国際レベルスポーツにおけるスポーツドクターの仕事を説明できる。
担当	村上成道（相沢病院）			

授業日	第 20 回	6月15日(月 1)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	中間試験			
担当	高橋淳、岡本正則			
授業日	第 21 回	6月15日(月 2)	SB0s	F-3-5)-(7)①変形性股関節症と大腿骨頭壊死の診断・診察ができる。 ○下肢の関節疾患の中でも頻度が高い変形性股関節症と、難治性疾患である大腿骨頭壊死症に関し、1)その病態、2)症状、3)診断、4)予後、5)治療などについて概説できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	変形性関節症概論、変形性股関節症と大腿骨頭壊死症の病態と治療			
担当	下平浩揮			
授業日	第 22 回	6月15日(月 3)	SB0s	D-4-4)-(1)⑥関節炎の病態、診断と治療を説明できる。 D-4-4)-(2)①化膿性関節炎の症候、診断と治療を説明できる。 E-4-3)-(2) ①関節リウマチの病態生理、症候、診断、治療とリハビリテーションを説明できる。 ②関節リウマチの関節外症状を説明できる。 ③成人 Still 病の症候、診断と治療を説明できる。 ④若年性特発性関節炎(juvenile idiopathic arthritis <JIA>)の特徴を説明できる。 ○関節の炎症性疾患（化膿性関節炎、骨髄炎）、関節リウマチ、痛風・偽痛風などの診断と治療について学ぶ。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	関節の炎症性疾患（化膿性関節炎、骨髄炎）、関節リウマチ、痛風・偽痛風			
担当	下平浩揮			
授業日	第 23 回	6月15日(月 4)	SB0s	E-3-5)④転移性脊椎腫瘍、骨肉腫について説明できる。 ○脊椎・脊髄腫瘍の診断と治療 ○脊椎脊髄腫瘍は脊髄麻痺を呈する重要な疾患である。これらの診断と治療について紹介する。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	脊椎/脊髄腫瘍の診断と治療			
担当	上原将志			
授業日	第 24 回	6月15日(月 5)	SB0s	D-4-4)-(3) ①原発性骨腫瘍（骨肉腫、Ewing 肉腫）の臨床所見、画像所見、病理所見、初期治療を説明できる。 ②転移性骨腫瘍の臨床所見、画像所見、検査所見を説明できる。 ③悪性軟部腫瘍（脂肪肉腫）の診断、病理所見、治療を概説できる。 ○骨腫瘍・軟部腫瘍の治療法の戦略、生検術、手術方法、化学療法について、症例を供覧しながら解説する。 ○運動器系腫瘍の放射線治療の適応・方法・成績を説明できる。 ○骨肉腫とユーイング肉腫の診断と治療を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	骨軟部腫瘍の診断			
担当	高沢彰			
授業日	第 25 回	6月15日(月 6)	SB0s	D-4-4)-(3) ①原発性骨腫瘍（骨肉腫、Ewing 肉腫）の臨床所見、画像所見、病理所見、初期治療を説明できる。 ②転移性骨腫瘍の臨床所見、画像所見、検査所見を説明できる。 ③悪性軟部腫瘍（脂肪肉腫）の診断、病理所見、治療を概説できる。 ○骨腫瘍・軟部腫瘍の治療法の戦略、生検術、手術方法、化学療法について、症例を供覧しながら解説する。 ○運動器系腫瘍の放射線治療の適応・方法・成績を説明できる。 ○骨肉腫とユーイング肉腫の診断と治療を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	骨軟部腫瘍の治療戦略			
担当	岡本正則			
授業日	第 26 回	6月16日(火 1)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	自習			
担当				
授業日	第 27 回	6月16日(火 2)	SB0s	C-2-1)-(2) ①細胞骨格を構成するタンパク質とその機能を概説できる。 ②アクチンフィラメント系による細胞運動を説明できる。 ④微小管の役割や機能を説明できる。 C-2-2)-(1) ⑤筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	筋肉とその収縮について学ぶ。			
担当	田淵 克彦			
授業日	第 28 回	6月16日(火 3)	SB0s	D-4-4)-(1) ⑦変形性関節症の症候、診断と治療を説明できる。 ○膝関節の代表的疾患である変形性膝関節症について、その診断、保存治療・手術治療その適応、合併症等について概説する。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	変形性膝関節症の診断と治療			
担当	小山傑			
授業日	第 29 回	6月17日(水 5)	SB0s	D-4-1) ⑥骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。 ○骨組織修復の機序を理解し、骨折・骨欠損治療の理論を修得する。骨組織再生医療の概略を把握する。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	骨組織修復の基礎と臨床			
担当	青木薫			

授業日	第 30 回	6月17日(水 6)	SB0s	D-4-4)-(1)⑧絞扼性末梢神経障害（手根管症候群、肘部管症候群等）を列挙し、その症候を説明できる。 ○胸郭出口症候群、肘部管症候群、手根管症候群の病態、診断、治療について説明できる
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	胸郭出口症候群、絞扼性末梢神経障害について学ぶ			
担当	林正徳（岡谷市民病院）			
授業日	第 31 回	6月18日(木 1)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	自習			
担当				
授業日	第 32 回	6月18日(木 2)	SB0s	D-2-4)-(1) ②脳血管障害の治療と急性期・回復期・維持期（生活期）のリハビリテーション医療を概説できる。 ○中枢神経疾患のリハビリテーションの方法について説明できる。 ○高次機能障害の診断と、そのリハビリテーションについて、意義、適応、方法について説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	中枢神経障害に対するリハビリテーション			
担当	池上章太（リハビリテーション科）			
授業日	第 33 回	6月18日(木 3)	SB0s	D-4-4)-(1) ⑩脊髄損傷の診断、治療を説明できる。 ○脊髄障害を来した患者の診察法、各種検査法、保存的治療法、手術方法、適応などが説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	脊髄障害の診断と治療指針			
担当	大場悠己			
授業日	第 34 回	6月19日(金 4)	SB0s	D-4-2) ②筋骨格系画像診断（エックス線、MRI、脊椎造影、骨塩定量）の適応を概説できる。 D-4-4)-(3) ①骨腫瘍のX線解析法：辺縁の性状、骨膜反応の形状、細胞間基質の種類を説明できる。 ②転移性骨腫瘍のX線像の種類を説明できる。 ○関節疾患のX線解析法：The ABC's approachを説明できる。 ○骨形成性骨腫瘍、軟骨形成性骨腫瘍、線維性骨腫瘍、その他の骨腫瘍の典型的な画像所見を説明できる。 ○軟部腫瘍にみられる脂肪、粘液、硝子軟骨、膠原線維、出血、嚢胞などのMR所見を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	骨腫瘍・関節疾患のX線解析法			
担当	塚原嘉典（画像医学）			
授業日	第 35 回	6月19日(金 5)	SB0s	D-4-2) ②筋骨格系画像診断（エックス線撮影、磁気共鳴画像法<MRI>、超音波検査、骨塩定量）の適応を概説できる。 ○肩関節の腱板断裂や関節唇損傷、肘の離断性骨軟骨炎、手関節の三角線維軟骨損傷のMR所見を説明できる。 ○膝内障のMR所見を説明できる。 ○骨折の診断に有用な画像診断法、X線撮影時の注意点（4-tws）を説明できる。 ○骨挫傷、疲労骨折のMR所見を説明できる。 ○骨髄炎の種類、X線像、MR所見を説明できる。 ○骨壊死の原因、X線像、MR所見を説明できる。 ○筋、腱損傷のMR所見を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	関節疾患、骨・軟部組織の外傷、感染症、骨壊死の画像診断法			
担当	塚原嘉典（画像医学）			
授業日	第 36 回	6月19日(金 6)	SB0s	D-4-4)-(1) ②関節の脱臼、靱帯損傷の定義、重症度分類、診断と治療を説明できる。 E-7-3) ⑤成長に関わる主な異常（小児心身症を含む）を列挙できる。 ⑦小児の診断法と治療法における特徴を概説できる。 ○先天性股関節脱臼、筋性斜頸、ペルテス病などの成因、診断、治療について説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	小児整形外科疾患の診断と治療（内反足以外） 授業のふりかえりを入力する。			
担当	松原光宏（長野県立こども病院）			
授業日	第 37 回	6月24日(水 2)	SB0s	
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	期末試験			
担当	高橋淳、岡本正則			